



平成28年2月2日（火） 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
恵那農林事務所	農業普及課	鶴飼	電話 0573-26-1111（内線 384）
			FAX 0573-26-1377
中山間農業研究所	中津川支所	鍵谷	直通 0573-68-2036
			FAX 0573-68-3116

## 「恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所 中津川支所合同成果発表会」の開催について

恵那農林事務所と中山間農業研究所では、中山間農業の振興や農業者の所得向上のため、中山間農業を取り巻く諸問題に的確に対応した新たな技術開発、並びに生産現場への迅速な普及を二機関が一体となり取り組んでいます。

このたび、平成27年度の農業分野における普及活動や試験研究の成果について報告し、中山間農業の振興を進めることを目的として、「恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所中津川支所合同成果発表会」を下記のとおり開催します。

### 記

- 1 日 時 平成28年2月8日（月） 13:30～16:35
- 2 場 所 恵那総合庁舎 5階大会議室  
(恵那市長島町正家後田1067-71 電話：0573-26-1111)
- 3 参加対象者 約120名 農業者、農業関係団体・市町村職員等
- 4 発表内容  
(1) 恵那農林事務所農業普及課 活動発表3課題

課題名	内 容
飼料用米への取り組みを通じた集落営農組織の支援 (13:45～14:05)	近年、水田農業を取り巻く状況は大きく変化し、飼料用米の取り組みが増加しており、 <u>集落営農組織</u> <sup>1</sup> においても主要品目の1つとなっています。農業普及課では、飼料用米の品種や作付体系の検討、単収向上と安定生産に向けた活動を通じて、集落営農組織における水田活用の取り組みを支援しており、これまでの活動成果について報告します。
「クリの産地は樹（気、期）づくりから」 ～クリの樹、元気、やる気、続き…樹（気、期）づくりで産地を活性化！！～ (14:05～14:25)	東美濃地域では、 <u>低樹高・超低樹高栽培技術</u> <sup>2</sup> が25年ほど前から普及し、その技術で栽培された栗は大果・高品質で安定多収生産が可能となっています。この技術の実践が必須条件として生産されるクリが <u>超特選栗</u> <sup>3</sup> で地元和菓子屋との高単価契約が行われています。また、平成18年から生産者や各関係機関が集まり地産地消（商）拡大プロジェクトチームを立ち上げ、産地振興をはかっており、2年連続でJA販売額1億円を達成しましたので、その取り組みについて報告します。
夏秋なすの産地規模拡大に向けた取組 (14:25～14:45)	東美濃地域の夏秋なすは、岐阜県下の出荷量の約1/4を占めるとともに、夏秋なすとしては珍しい共同選果体制で市場出荷される産地として、市場からも高い評価を得ています。しかし、平成27年度は10年前に比較して、作付面積および出荷量とも5割前後に減少するなど、産地規模が著しく縮小しています。そこで、栽培技術の改善から生産者確保対策など、産地規模の拡大に向けた対策について検討して来ており、これまでの活動成果について報告します。

(2) 中山間農業研究所中津川支所 試験研究成果検討4 課題

課題名	内 容
水田用小型除草ロボットを中核として水稻有機栽培システムの構築 (15:00～15:15)	岐阜県が開発を進めてきた水田用小型除草ロボット(アイガモロボット)を用いて、 <u>JAS有機</u> に準じた栽培体系で除草効果の検討を行いました。今回は使用肥料の種類及び除草回数の低減等その成果を報告します。
シクラメンの岐阜県オリジナル有望系統の育成 (15:15～15:30)	県内鉢花産地の活性化のため岐阜県オリジナル品種の作出が強く望まれている。シクラメンにおいては県登録品種「ムーンルージュ」の改良と、これを基軸にした黄花系新品種の育種に取り組んできましたので、その経過と有望系統を紹介します。
岐阜県オリジナルのクリ新品種「えな宝来」、「えな宝月」の育成 (15:30～15:45)	クリ産地や菓子製造業者からは、多収で出荷端境期を埋めることができ、栗きんとんの加工に適する品種の育成が切望されてきましたので、これらニーズを満たし、8月下旬から収穫できる「えな宝来」と、9月中旬に収穫できる「えな宝来」を育成しました。この両品種の育成経過と特性等について報告します。
夏秋トマト少量培地耕栽培における装置の改良 (15:45～16:00)	夏秋トマトの少量培地耕栽培において、慣行栽培で行われている斜め誘引で密植を行った場合、20t/10a 近い収量は得られますが、果実品質の劣化、平均果重の低下、さらに作業性の低下が課題でありました。そこで誘引方法を含めて栽培装置の改良により、果実品質の劣化、平均果重の低下を抑え、目標である 20t/10a を達成できたので報告します。

**【用語解説】**

**1 集落営農組織**

農村そのものや農村での営農（水稻栽培等）を維持するため、集落における農作業や農地管理等を共同で行うために設立された組織。機械の共同購入や共同作業、作業を受委託する組織など形態は多様。

**2 低樹高・超低樹高栽培技術**

長期にわたって樹勢を保ちつつ樹高を低く管理することで、大粒・高品質な果実を安定して多収生産するクリの整枝・せん定法。樹齢約 15 年生までは低樹高（樹高 3.5m 程）で短めの枝に、樹齢約 15 年以上は超低樹高（剪定位置 2.5m 程）で長い枝に実を生らせるのが特徴。

**3 超特選栗**

東美濃栗振興協議会の専門部会「超特選栗部会」が生産するクリで、JA を介して特定の地元菓子店へ契約出荷されている。栽培基準は低樹高・超低樹高栽培と、ぎふクリーン農業基準栽培であることと、出荷基準として、栗きんとん加工に適した特定品種のみ出荷可能であること、出荷前 24 時間以内の収穫等が条件。

**4 JAS有機**

農林物資の規格化等に関する法律（昭和 25 年 5 月 11 日法律第 175 号）（JAS 法）及び有機農産物の日本農林規格に規定された生産行程により生産し格付された農産物のこと。

**5 「ムーンルージュ」**

岐阜県が育成し、平成 19 年 8 月に品種登録されたシクラメンの品種。花卉色が黄色で基部が赤紫となるのが特徴。県内産地である東濃地域を中心に生産され、花持ちが良いとの好評価もあり今後の普及が期待されている。